

## 引き締め、緩めながら

校長 菊池 幸博

緊急事態宣言が10月1日に解除されるという報道を聞きながら、この学校便りの巻頭言を書いているところです。8月の臨時休業、そして9月の時差・分散登校と、今年も新型コロナウイルス感染症の影響で、このひと月、子どもたちはいつもと違うリズムで学校生活を送ってきました。ところが、日々の子どもの様子は、オンライン学習や半数の友達など、初めのころはやや戸惑いの様子も見受けられましたが、教室でしっかりと学び・校庭で楽しく遊ぶというものでした。いまさらながらに子どもたちの順応性の高さに驚かされました。



一見、環境の変化に合わせてながら学校生活を送っているように見える子どもたちですが、実は、「学級のみんなで参加できるオンライン授業が楽しい」「会えない友達はどうしているのだろう」「みんな一緒に教室で過ごしたい」など、学級の仲間への思いが子どもたちの言葉に表れていました。中には、「いつになったら前のようになるのかな」「コロナが早く終わってほしい」「みんながそろわないと寂しい」といった不安や不満の声も聞かれていました。

子どもたちのこうした声を聴き改めて、以前にも書かせていただきましたが、なんでもない日常生活のありがたみについて考えさせられました。朝起きて、食事をし、学校で学び・遊び、家庭で過ごす。休日には家族や友達と出かけたり、のんびりと家で過ごしたりといった、ごく当たり前の生活が思うようにいかないことは、知らず知らずのうちに子どもたちだけに限らず社会全体のストレスとなって、要らぬテンション(緊張)を生むこととなります。そしてこのテンションが長引けば長引くほど、気持ちの面にも身体の面にも悪影響を及ぼします。

10月1日からの緊急事態宣言解除予定は、もちろん手放しでは喜べない面もありますが、日々蓄積され、高まったテンションを下げてくれる(緩和)効果を期待したいと思っています。緩みすぎると第六波につながりかねないので、これまでに身についた、こまめに手洗いをすること・3密を避ける生活様式等を継続しつつ、これ以上感染が拡大していかないように努めていきたいところです。

わたしたちの日常をできるだけ取り戻すために、3つの約束「しっかりあいさつ」「いじめはしない・させない・ゆるさない」「自分から」を守りながら、今後も教室や階段・廊下、手洗い場やトイレなどの消毒、子ども同士の間隔をとった活動、マスクの着用、給食の黙食及び一方向喫食等に取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、引き続き感染拡大防止へのご理解とご協力をお願いいたします。

